

音曲面を中心とする能の演出の進化・多様化

研究代表者：藤田隆則

プロジェクト研究（継続）

共同研究員：安納真理子（東京工大）、上野正章、大谷節子（成城大）、大山範子、柴田真希、高橋葉子（本学客員研究員）、田草川みずき（千葉大）、田中敏文、玉村恭（上越教育大）、中尾薫（大阪大）、長田あかね、永原順子（大阪大）、中嶋謙昌（灘高）、丹羽幸江（本学客員研究員）、Pellecchia Diego（京都産業大）、森田都紀（京都造形芸大）、横山太郎（跡見学園女子大）

開催趣旨：

能の多くの登場人物は囃子にのって登場する。そして、すべての登場人物は台詞の一部を必ず歌う。能は音曲の要素なしにはなりたたないのである。室町期以来の伝承の過程で、能の音曲は、娯楽と社交の、儀礼遂行の、修道の、手段となってきており、それにともない能の音曲は、構成やテクスチャーにおいて、独自の発展をとげ、日本の伝統芸能の中でもユニークな存在となっている。だが、ユニークさをうたっているわけにはいかない。時代の流れの中で、音曲は様々な影響を被り、変化を受けてきた事実があり、現代も新陳代謝を続けている。本研究会は、能の演出の進化・多様化を、音曲面を中心に見渡すことをめざす。本年度を最終年度とする。

2017年度の研究会

時間：13時30分—17時

場所：日本伝統音楽研究センター合同研究室（新研究棟7階）

- 6月13日（火）スタンフォード大学との共同プロジェクト打ち合わせ
- 6月14日（水）金剛流の能〈小鍛冶〉〈半部〉、申し合わせ（於：金剛能楽堂）
- 6月15日（木）金剛流の能〈小鍛冶〉〈半部〉の上演（於：金剛能楽堂）
- 7月6日（木）ワキのかたり、ナレーション、音楽（藤田、ゲスト：安田登）
- 7月7日（金）ワキ、ナレーション、インターメディア（藤田、ゲスト：安田登）
- 10月19日（木）研究計画打ち合わせ
- 11月29日（水）初心者に対する謡の教授について（ゲスト：浦田保親）
- 2月2日（金）謡に見るテトラコルド音階からオクターブ音階への移行現象（田中）、翻刻『脇直伝仕方附』（ゲスト：飯塚恵理人）
- 2月9日（金）日本の伝統的な語り物の立体化—幸若舞と題目立（藤田）、能のワキは何を夢見ているのか（ゲスト：有松遼一、客員教授安田登）
- 2月10日（土）能のワキ方にきく論語の中の「楽」（ゲスト：安田登）
- 2月14日（水）真言宗の講式をめぐって—その1（丹羽、於：金剛峯寺）
- 2月15日（木）常楽会の次第について—その2（丹羽、於：金剛峯寺）
- 3月1日（木）オリエントのSPレコード（高橋）
- 3月18日（日）近代初期にはどのような「稽古」が行われていたか（玉村）、近松没後の義太夫節文字譜索引の作成について（田草川）、狂言〈八句連歌〉の音曲（大谷）

- 3月19日(月) 観世文庫所蔵の謡伝書『観世流謡学掲的』(長田)、『観世流謡学掲的』覚書(高橋)、岩井七郎右衛門系譜追考(恵阪)、望月について(藤田)
- 3月20日(火) 江戸中期の謡稽古の記録を読む(中尾)、東京朝日新聞を通じた観世流改訂謡本の普及について(上野)、近代能楽の宗家の動向と型付(横山)

歴史的音源からみる三味線音楽の音楽的研究—町田佳聲とその周辺

研究代表者：山田智恵子

プロジェクト研究(継続)

共同研究員：大久保真利子(九州大学総合研究博物館専門研究員)、小塩さとみ(宮城教育大学教授)、大西秀紀(京都市立芸術大学客員研究員)、蒲生郷昭(東京文化財研究所名誉研究員)、久保田敏子(京都市立芸術大学名誉教授)、薦田治子(武蔵野音楽大学教授)、田中悠美子(義太夫三味線演奏家)、寺田真由美(相模女子大学非常勤講師)、時田アリソン(日本伝統音楽研究センター所長)、野川美穂子(東京芸術大学非常勤講師)、配川美加(東京芸術大学非常勤講師)、廣井榮子(大阪教育大学非常勤講師)、吉野雪子(国立音楽大学非常勤講師)

開催趣旨：

町田佳聲は、五線譜による楽譜集『三味線声曲における旋律型の研究』以後、やり残した仕事のいくつかをLPレコードアルバムの形で発表している。それは現存三味線音楽に見られる、先行芸能・流行歌・古浄瑠璃などの引用の考証と、上方と江戸の音楽様式の違いを把握することなどを目的とし、その考察の対象となる音源を多数残した。それらのレコードアルバムは、町田の三味線音楽研究人脈によってなされたもので、現在我々が演奏家の協力のもと同じことをしようとしても、かなり困難な状況にある。従って、その歴史的音源の内容を検討しつつ、三味線音楽における通ジャンルの旋律型を音から辿ることを試みる。各種の三味線音楽研究者との共同研究が必要であり、主に前プロジェクト研究からのメンバーの継続が中心となる。また、成果発表については、一般公開を目的として、歴史的音源などを使用して、2018年9月8、9日、16日の3日間にわたり、でんおん連続講座Fを予定し開催した。

2017年度

第1回研究会 2017年5月27日(土) 12時～17時30分、義太夫節演奏研究会第二回研究成果報告会(研究代表者 太田暁子)と共催部分のみ一般公開(事前申し込み、入場無料)。

場所：京都市立芸術大学 大学会館交流室

内容：①義太夫節演奏研究会 第二回研究成果報告会「十代豊竹若太夫を振り返る(没後五十年追善)」13時～15時30分

総合司会 山田智恵子

第一部 講演「義太夫節の音楽」

報告1「『浄瑠璃三味線ひとり稽古』を読む その二」太田暁子(ゲストスピーカー、東京音楽大学他講師)

報告2「十代豊竹若太夫の演奏の歴史的な位置付け」神津武男(ゲストスピーカー、京都市立芸術大学客員研究員)

第二部 座談会「十代豊竹若太夫の思い出 その二」

お話 豊竹嶋太夫(ゲストスピーカー、人間国宝)

竹本駒之助（ゲストスピーカー、人間国宝）
聞き手 神津武男、太田暁子

②プロジェクト研究会 15：30～17：30

9月の成果報告連続講座のための研究打ち合わせ

第2回研究会 2017年9月8日（金）10時～17時30分

でんおん連続講座F（研究成果報告講演）各回

① 10：30～12：00、

② 13：00～14：30、③ 15：00～16：30

場所：新研究棟7階・合同研究室1

- ① 町田佳聲と「木やり歌」研究 山田智恵子
- ② 長唄の旋律型を考える 小塩さとみ
- ③ 町田佳聲と国際文化振興会レコード 大久保真利子

第3回研究会 2017年9月9日（土）10時～17時

場所：京都市国際交流会館第3会議室

① 町田佳聲の端唄・うた沢・小唄研究 寺田真由美

②+③

近世邦楽における「レンボ」の広がり 野川美穂子

河東節、一中節の「レンボ」 吉野雪子

歌舞伎音楽（長唄・陰囃子・常磐津節）の「レンボ」 配川美加

第4回研究会 2017年9月16日（土）10時～17時

場所：合同研究室1

- ① 町田佳聲と古曲保存会レコード 大西秀紀
- ② 平家琵琶に三味線の手の源をさぐる 薦田治子
- ③ 藤井清水と町田佳聲の「点と線」 廣井榮子

第5回研究会 2018年2月4日（日）12時～20時

場所：ウィングス京都イベントホール

内容 山田智恵子退任記念、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター第50回公開講座「義太夫節 通し
狂言の復曲 第二回」へ参加。

第6回研究会 2018年2月5日（月）10時30分～17時

場所：新研究棟7階合同研究室1

- ① 神津武男（ゲストスピーカー、京都市立芸術大学客員研究員）による展覧解説「京都と人形浄瑠璃」
- ② 研究代表者、および共同研究員全員による研究総括、および今後の三味線音楽研究について

雅楽および関連芸能の歴史的音楽動作様式をさぐる ―多様な解釈の可能性―

研究代表者：田鍬智志

共同研究（2016年度開始）

共同研究員：今 由佳里（鹿児島大学教育学部准教授）、中尾 薫（大阪大学大学院文学研究科准教授）、平野 みゆき（金蘭千里高等学校中学校社会科教諭）、上野 正章（大阪大学招聘研究員）、増田 真結（京都市立芸術大学音楽学部講師）、ジョライ アンドレア（GIOLAI Andrea 国際日本文化研究センター日本学術振興会研究員）

趣旨：雅楽において楽譜・舞譜は、古今それぞれの時代に撰述がなされ、少なからず伝存している。備忘的・簡易的記譜法で記されているそれら楽譜史料は、解釈如何によって、そこから様々な音楽・舞踊が立ち現れうるものである。当研究会では、メンバー夫々が対象とする音楽・芸能に対し（唯一の解釈に収斂させてしまうのではなく）さまざまなアプローチにより、さまざまな解釈を提示しあって、さまざまな再現・復興の可能性を追求していく。

■地方に息づく京都祇園祭芸能の研究と公開講座

中世舞楽の様式からの影響が考えられる祇園会山鉦の稚児の舞、それが地方に伝播し伝承されている例の一つ、遠州森町山名神社の舞ものを研究対象としてとりあげ、公開講座をおこなった。

7月12日（水）現地調査および打合せ、8月7日（月）打合せ、9月17日（日）第49回公開講座「地方に息づく京都祇園祭の芸能 遠州森町山名神社の舞もの一」（田鍬企画構成）、京都市男女共同参画センターウィングス京都イベントホール。

オブザーバー / 講演：北島恵介（森町教育委員会社会教育課技監）・加藤雄一（同課文化振興係）

藤川桐人（本学大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻）

出演：山名神社天王祭舞楽保存会

■メンバーによるリレー連続講座の実施

メンバーそれぞれの研究の途中経過報告を連続講座の形式でおこなった。

9月18日（月祝）検討会、11月8日（水）自習会・11月17-18日（金土）打合せ会・12月7-8日（木金）自習会、12月9-10日（土日）連続講座H「カラダで検証する雅楽研究その1」

中尾薫「貞保親王と《王昭君》～雅楽から能へ」

実演：平安末・鎌倉期笛譜による《王昭君》：伊藤慶祐（本学音楽学部作曲専攻卒）

上野正章「雅楽器の独習1～理論と実践」

今由佳里「伊勢神宮の《鳥名子舞》を復活する」

実演：復活した《鳥名子舞》：伊藤慶祐（笛）・今（笏拍子）・田鍬（笙）

田鍬「琵琶諸調子譜と新撰楽譜～平安中期の旋律スタイル」

実演：琵琶諸調子譜による《青海波》

平野みゆき「四天王寺伝承《早甘州》のルーツ1～旋律からのアプローチ」

■平安中期の雅楽の再現

平安中期の楽譜、新撰楽譜・琵琶諸調子譜を中心として、やや後代の楽譜（経信卿自筆琵琶譜・三五要録・古譜律巻・仁智要録）援用し、垣代音取・輪臺・青海波・劔氣禪脱・竹林楽・西王楽（序破）・海青楽・散吟打球楽・赤白桃李花（全六帖）の演奏・録音をおこなった。朗読アンサンブル京・Genjiとの舞台公演上で披露した。

12月11日（月）「うたかたの花の夢―源氏物語による創作朗読劇と古楽譜による雅楽でつづる―」公開試演会（大学講堂）、1月21日（日）同公演本番（ウエスティーホール）、2月8日（木）全曲レコーディング（大学内

大合奏室)。

演奏：伊藤慶佑（笛）・管亭安（琵琶 / 本学大学院研究留学生）・陳宗彤（笙 / 本学大学院研究留学生）・田鍬（箏）・
ジョライ アンドレア（撮影 / 録音）

■その他の活動

7月5日（水）部会、7月26日（水）研究経過発表会、8月6日（日）部会、3月6-7日（火水）研究経過発表会・天王寺楽所雅亮会（以和貴会）演奏会見学。

「豊後系浄瑠璃の史料と伝承—常磐津節を中心に—」

研究代表者：竹内有一

（共同研究：2016年度より継続）

共同研究員：大西秀紀（京都市立芸術大学客員研究員）、櫛田典子（常磐津協会正会員、邦楽演奏家）、小西志保（竹内研究室研究嘱託員、邦楽演奏家）、龍城千与枝（元京都市立芸術大学非常勤講師）、常岡亮（常磐津協会理事、邦楽演奏家）、配川美加（東京芸術大学非常勤講師）、前島美保（日本学術振興会特別研究員、京都市立芸術大学客員研究員）、

豊後系浄瑠璃諸派のうち、流祖宮古路豊後掾の直系で現存最古とされる常磐津節を中心に、総合的な調査研究を行う。以下の課題を適宜分担して研究を進める。

(1) 新出常磐津正本の書誌的調査・翻刻・歴史的考察、(2) 他流との掛合ものの実践的研究、(3) 稀曲・復曲に関わる予備的研究、(4) レコード音源の調査と考証。

開催場所は、特筆なき場合、日本伝統音楽研究センター合同研究室2または805研究室。

第1回 2017年4月20日（木）14時～18時

ミーティング、常磐津正本「心情語而御神楽」の解説と考察（小西・竹内・常岡）

第2回 2017年4月21日（金）11時～17時

常磐津正本「心情語而御神楽」の解説と考察（小西・竹内・常岡）

第3回 2017年5月18日（木）13時～18時

常磐津正本「和事色世話」の解説と考察（ゲストスピーカー：竹内道敬、小西・竹内・常岡・龍城）

第4回 2017年5月19日（金）11時～16時

常磐津正本「初深雪花の袖笠」の解説と考察（小西・竹内・常岡）

第5回 2017年6月29日（木）13時～19時

常磐津正本「蝶羽風梅暫」の解説と考察（櫛田・小西・竹内・常岡）

第6回 2017年6月30日（金）11時～17時

常磐津正本「大和い手向五字」の解説と考察（櫛田・小西・竹内・常岡）

第7回 2017年7月1日（土）11時～17時

常磐津正本「蝶衛花の常磐津」の解説と考察（櫛田・小西・竹内・龍城・常岡）

第8回 2017年7月27日（木）13時～17時

常磐津正本「花吹雪裾野忍笠」の解説と考察（櫛田・小西・竹内・常岡）

第9回 2017年7月28日（金）11時～18時

常磐津正本「花吹雪裾野忍笠」の解説と考察（櫛田・小西・竹内・常岡）

第10回 2017年7月29日(土) 11時～17時

常磐津正本「蝶衛花の常磐津」の解説と考察(榎田・小西・常岡)

第11回 2017年8月20日(日) 14時～19時

常磐津正本「花既仇夜嵐」の解説と考察(榎田・小西・竹内・常岡)

第12回 2017年8月21日(月) 11時～18時

常磐津正本「花既仇夜嵐」の解説と考察(榎田・小西・竹内・常岡)

第13回 2017年8月22日(火) 11時～17時

常磐津家元所蔵正本の修復作業(榎田・小西・竹内・常岡)、場所:日本伝統音楽研究センター601研究室

第14回 2017年9月8日(金) 12時～17時

常磐津曲と箏との合奏の手法について(ゲストスピーカー:西川かをり、小西・竹内、聴講:常磐津部員)

第15回 2017年9月18日(月) 12時～18時

常磐津家元所蔵正本の修復作業(榎田・小西・常岡)、場所:日本伝統音楽研究センター601研究室

第16回 2017年9月19日(火) 10時～17時

常磐津家元所蔵正本の修復作業(榎田・小西・竹内・常岡)、場所:同上

第17回 2017年11月17日(金) 15時～20時30分

研究ミーティング「曲節譜史料としての浄瑠璃正本—豊後三流の場合—」(榎田・小西・竹内・常岡)

第18回 2017年11月18日(土) 13時～17時

翻刻の総括(榎田・小西・竹内・常岡)

第19回 2018年3月17日(土) 13時～15時30分

来年度の課題(小西・竹内・常岡)、場所:ホテルグランヴィア京都

近世日本における儒学の楽思想に関する思想史・文化史・音楽学的アプローチ

研究代表者:武内恵美子

(共同研究 継続)

共同研究員:明木茂夫(中京大学 教授)、遠藤徹(東京学芸大学、教授)、榎木亨(関西大学東西学術研究所 非常勤研究員)、小林龍彦(前橋工科大学 名誉教授)、小島康敬(国際基督教大学 教授)、高橋博巳(金城学院大学 名誉教授)、平木實(天理大学 元教授)、南谷美保(四天王寺大学、教授)、山寺美紀子(國學院大學北海道短期大学部、兼任講師)、渡辺信一郎(京都府立大学 名誉教授)

趣旨:江戸時代に展開した儒学における楽思想の展開を、古代中国史、中国文化史、朝鮮文化史の研究者も交え、思想史・文化史・科学史・音楽学の多方面から総合的に解釈することを目的とする。

従来の楽思想は一人の儒者の思想だけであることが多く、広く総合的に捉えられることがほとんどなかった。本共同研究では、各時代、中国・朝鮮・日本の各方面の研究者で組織し、多角的に検討することが特色となっている。これにより、一面的に捉えられがちな楽思想を学際的に捉えることができると考える。

2017年7月29日(土)

渡辺信一郎氏「大唐雅楽の成立(続)」

中尾友香梨氏「日本近世における明清音楽の受容について」(ゲストスピーカー)

2017年7月30日(日)

高橋博巳氏「文人の交遊:浪華・漢城・北京」

唐権氏「来舶清人江芸閣について — 文化文政期の清日交流の一側面」(ゲストスピーカー)

2月18日(日)

遠藤徹氏「延長6年に唐笛師平群秀茂が注進した目録について」

山寺美紀子氏「荻生徂徠の音楽に関する新出資料の紹介——特に「三五要略考」と音楽に関する覚え書き、及び中根元圭に宛てた書簡を取り上げて——」

2月19日(月)

小林龍彦氏『朱載堉の円周率と荻生徂徠』

榎木亨氏「鈴木蘭園の楽律論—『律呂辨説』を中心として—」

3月18日(日)

明木茂夫氏「豊田市中央図書館所蔵文政十三年抄本『律呂』について」

平木實氏「朝鮮時代前期の儒者と玄琴」

3月19日(月)

小島康敬氏「徂徠の残響—春台・景山・博泉・貢・万里の「楽」言説—」

南谷美保氏「東儀文均の周辺—三方楽所楽人以外の人々との交流」